

13番（前田法弘君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、これから私の一般質問をさせていただきます。

今回、一般質問に先立ち通告をいたしましたのは、大きなテーマとしては、新しいまちづくりについてであります。

まちづくりは、やはり人づくりが大事であります。人なくしてはまちの形成はありませんし、成り立つものでもありません。そこに住んでいる人たちの安心・安全を考え守っていくには、議会と行政の責任は重大であります。

今回の一般質問は、地域活性化、観光行政、中小企業対策について、土地区画整理を考えながら進めてまいります。

また、交通対策、高校総体、男女共同参画などについて、市長、教育長にお尋ねをいたします。

久しぶりの初日の一般質問であります。私、議員になりまして最初に登壇いたしましたのが、初日の2番目でありました。それ以来、3日目、4日目、最終日ということで、久々の初日で若干緊張をしておりますが、温かい目で皆様ごらんいただきたいと思います。

さて、さきの内閣改造で、農林水産副大臣に佐賀県から2人も就任するという、身体検査もよくされてのことと思いますが、心配をするのは私だけでしょうか。政府の今回の特に1人区での大敗を受け、地方と都会の格差について、これをどう縮めていくかということを経済政策の重点に置いているようであります。その際、ただ単に、お金を地方にばらまくだけでは、なかなか地方の納得はいただけないものと思います。いかに地方の人たちがこの機会を通して、自分たち自身でどう立ち上がり、その意欲を見せるか、ここにかかっていることと思います。またさらに、地方分権の代表的なものとして道州制が検討されておりますが、これも意外に早く導入されるのではないかと思います。

先ほどの答弁の中にもありましたように、先日、西日本新聞を読んでおりました。たまたま西日本新聞を読んでおりました。この日の記事には、3つ私の目にとまる記事がございました。皆様も御存じだと思います。その1つは、先ほどの答弁にあった佐賀県3年後の破産の記事であります。

国と地方財政を見直す三位一体改革に伴う地方交付税削減が続く一方、より一層の税収向上、歳入増が見込めないのが理由であります。今まさに地域間競争という言葉が使われております。競争という条件の中では、勝者が出れば必ず敗者が出ます。また、勝者は常に勝者ではありません。勝った者はいつか必ず負けます。佐賀北高校の甲子園での優勝、同僚議員の皆様と多くの皆様と一緒に観戦をいたしました。あの瞬間は、まさに私ども狂喜乱舞でありました。その余韻がまだ残っているのは私だけではないと思います。

私は、優勝したことよりも、まじめに素直に、そして謙虚に一生懸命に取り組んだ、あの

高校生らしい姿、これが試合を通じて全国の人たちの多くの皆様からの評価を得たことだろうと思います。らしさを失いつつある今、高校生らしさ、日本人らしさ、これを見直したところにあるのではないのでしょうか。

世の中は随分変わりました。年寄りみたいなことを言うなとおっしゃるかも知りませんが、円満な調和的な性格はどうしても阻害され、主知的で感傷的で利得を追い求める人たちが幅をきかせる時代になってまいりました。明治の人は、何か一本筋の通っている。そして、人間的な深みがあり、何かしらそこに潤いがあった。そういう人が多かったように思います。

せんだって、元武雄市の市議員さんでありました田中さんのお葬式に参列をいたしました。明治の方であります。その際、明治の星落ちると表現をされた弔辞を拝聴いたしました。なるほど、そのような人物であったと再認識をいたしております。

今、そのような方が全くいないわけではありません。何かお利口そうで、だけどずる賢い、そういう人たちが多くなってきたように思います。今度の高校生のあの姿、高校総体でのあの姿、私たちが忘れかけていたようなものをもう一度思い出させてくれたように思います。

地域の中で人間らしく、その人間らしさを求めて生きていきたいと思いますが、市長はどのように考えられるか、お尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、全国から武雄が注目を集めております。これは私は佐賀北と通底するところがあるというふうに思っております。というのも、普通の自治体が一生懸命頑張っている。それに対して注目、あるいはエールがあると思います。

先日夜、私は青山フラワーマーケットの社長、これは鹿島の出身の人でありますけれども、この人と懇談する場がありました。そのときに、全国で今一番頑張っているのは武雄市であるということのお褒めの言葉をいただいております。うまくいく例、失敗する例、多々あるかと思っておりますけれども、私もたまに怒ったり、たまに笑ったり、いや、いつも笑ったり、そういう人間らしさを忘れずに市政運営をしていきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

せんだっての講演の中でも、いつも笑って仕事をしておりますという言葉もありました。これは6月の議会でもお尋ねをしたことですが、ここに「がばい市長の1年」という佐賀新聞の特集記事がありました。この間は、その上というやつで、ちょうど武雄の駅前をおばあちゃんがリヤカーを引いて、ちょうどあの写真のことをお話しいたしました。きょうはその下段のほうで書いてあります。「進ちょく率30%、暮らしの課題手つかず」という

記事があって、その中には「武雄町の70代の男性は「市長は優秀だし、期待している」としながらも、「若さゆえなのか、立ち止まって考える度量が不足しているのでは」と懸念する」というふうな記事もあります。もちろんこの間は、いろんな見方はあるんだということでしたが、この1年間、もう1年と数カ月は過ぎておりますが、1年間に市長は新しい政策を次々に打ち出されていきました。それにかけた費用、それとその効果はいかがだったでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、1点だけの御指摘をとらえられましたけれども、私も数百件、いろんな指摘があります。お褒めの言葉もあれば批判の言葉もあるし、無関心な言葉もあればいろいろあります。その中で、私は幾らかかったかと、これはわかりません。ただ、私が胸を張って言えるのは、同じことをするにしても、マスコミが今どんどん出してもらっていますので、そういう意味での費用対効果はかなり高いというふうに思っております。同じことをほかの自治体が行うときには、特に企画関係でありますけれども、2割から3割安く、効果については、その数十倍あるかと思えます。その顕著な例が「佐賀のがばいばあちゃん」でありますし、レモングラスであります。楼門朝市もほとんどお金がかかっておりません。そういうことで、私は評価を願いたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

確かに、いろんな意味で評価するところもあります。そしてまた、いろんな批判も受けるところがあると思えます。その中で、区画整理事業についてお尋ねいたします。

区画整理事業、これは長い間、事業が続けられているようでございますが、どのようなことでこれが始まったのか、そして、今どこまで北部区画整理事業が進んでいるのか。また、いつまでにどうしたいのかをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

まず、御質問は3つだったと思えます。1つが、なぜ区画整理をしたのかということだと思えますが、これは高架事業をやるということになった段階で、せっかく高架をするんだしたら、それなりのもう1つ効果を出そうということから区画整理を始めたということでございます。

それと、2つ目が、今何をどこまでどうしているのかということだったと思えますが、今

回の北部区画整理は、高架が終わらんことには区画整理ができないというちょっと困った状況になっております。

それで、今高架がやっと姿が見えまして、来年の春には切りかえになるわけですね。それでもってやっと旧線路敷が除却になると。その後に区画整理がやっと始められるという状況です。ですから、来年の3月までの間に、来年の春に高架が切りかえになります。それで、20年度に今の在来の鉄道敷ですね、既設の鉄道敷が除却になって、そこに対して松原の建物をバックしてもらうという状況です。ですから、仮換地をまずこの次はせにゃいかんという状況です。

それから、あと1つ何やったですか。（「いつまで」と呼ぶ者あり）そして、事業完了は、今の計画では25年度までを計画しています。平成25年度です。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

これは当初はもう少し早い年度で済むはずだったのではないですか。当初の年度を教えてください。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

当初計画は、平成22年度までということになっておりました。（「どっちが、区画」と呼ぶ者あり）はい、区画整理が22年度まで。高架は20……済みません、高架も22年度まで。（発言する者あり）済みません、高架は18年度までです。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

高架事業が18年度までに終わる予定だった。北部区画整理事業は22年度までに終わる予定だったでいいですね。

それじゃ、高架が20年の春に完了、ちょっと聞かせてください。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

20年の春には高架の切りかえがあります。そして、21年度で今の仮線が走っていますけど、そこら辺を壊すとか、今現在走っている佐世保線ですね、あれを除却すると。それでもって事業は完了ですから、20年の春に高架を切りかえて、その後、それまで走っていた線路敷を除却すると。それで事業は完了と。ですから、21年度までと。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

線路ば外さんばいかんですね、終わった後ね。そしたら、この高架が本来18年、区画整理が22年、来年、再来年に終わる予定だったのが、ここまでずれてきた理由は何ですか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

3年、確かに高架は伸びました。それは一部の区間で工事に着工できなかった区間があったということと、区画整理が今度は、それに伴ってまた延ばさにかいかんかったということです。（「理由は」と呼ぶ者あり）

区画整理の延びた理由は、高架がそれだけ延びたということと……（「高架が延びた理由」と呼ぶ者あり）高架の理由は、一部事業に着手できなかった区間があったということです。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

一部着手できなかったところが、作業が今進んで、そして、その高架事業が着々と完成を目の前にしております。高架事業が済まなければ、土地区画整理事業は先に進まない、そういうことの説明だった。3年間延びた間、区画整理事業が延びることで、そこにお住まいの方たちは大変な迷惑をこうむっておられると思います。これは、いつか公共工事をする際の営業補償とか、もしくはそういう迷惑に対して、お金とは言いませんが、何かのことをされたらどうですかということを一一般質問したことがありました。公共の工事に属するわけですから、できませんというお答えでした。それとこれとは別だろうとは思いますが、この間、そこに住んでおられる方の御苦労というのは理解できますか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃること理解できます。地元説明では、このくらいでこうします、この年度くらいでこうしますという形の説明会をしているわけですから、それが都合でずっと今、極論は3年延びたわけですから、3年間の地元の地権者にとっては、計画がちょっと狂ったという形になっていると思います。ですから、そういうことでは計画変更をしてもらわにかいかんという形になりますが、かといって、その間に損害を与えたという形では私は思っておりません。ただ、こういうふうなことをしよう、このころにはこれをしようと思っておられたの

が、ちょっと延ばしてもらわにゃいかんようになったというところです。済みません。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

実損害はなかったでしょう。けど、精神的な、またその精神論を言ったら、それは別じゃろうとおっしゃるかもわからない。いや、実損害がなかったとは言い切れない。商店街であります。商売をされております。改造をしたい。商売上いろんなことを企てたい。そういったときに、それが3年間延びたことで身動きがとれない、そういう状況下に今あるわけです。そのところは理解してください。しかし、その間、松原、西浦、永松、あと小楠もありますかね、網がかかっているのは。そういうところの商店街、もしくは零細中小企業者、そういう方に対するの対策、金融対策だとか雇用対策、事業を継承していくための対策、そういうことはとられましたか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

区画整理だよりとかで、事業が延びているということはお知らせはいたしましたけど、今議員がおっしゃったような対策はとっておりません。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

建設部長だけですか、商業者に対する対策ですよ、これは営業部でしょう、農林商工課でしょう。ああ、よか、そのまま続けます。

区画整理だより等でお知らせをしたとおっしゃいました。区画整理だよりはどのくらいのペースでどういう内容で出されていますか。今までに何枚くらい出されましたか、いつから出されましたか。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

ことは春に出したというのは記憶にございますが、それが何号だったかというのはちょっと記憶にございません。後ほどまた調べて御報告します。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

19年3月、16号、これです。これはいただきました。19年3月に高架・区画整理事業につ

いて、平成20年春高架切りかえ、れんが調新駅舎オープンと書いてあります。駅のことだけ。新年度に仮換地指定、こしこ。その前にいただいたのは、これは16号、15号、17年10月。これ何年か、1年間以上あるですね。これじゃ行政として足りないところがたくさんあるんじゃないですか。最初出たのが、当時はこういうふうなB4程度のあれでしたよ、平成10年から出ています。これは都市計画課からいただきました。どういう資料をもって、その区画整理地域内地権者の方たちとお話をされたのですか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

まず事業に入る前に、地元でずっとおりていって説明会をします。それで、事業に入ったら入ったで、こういう事業に入りましたという形の説明をします。そうすると、とんとんと進む予定だったんですが、高架でこういうふうな状況になって、このところ区画整理そのものをお知らせするような事項がないんです。ですから、お知らせするような事項ができた段階で便りを出すという状況になっておりました。それまでは建物移転が進むとか、あるいは土地を買収するとか、そういう形でどんどん進んでおったわけですけど、高架が始まって高架が完成するまでは、ちょっと区画整理事業は一時休止みたいな状況でございましたので、便りを出すのも少なくなったということでございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

今またここで聞くのもどうかとは思ったんですが、言うのはどうかと思ったんですが、区画整理事業に対してどういう資料をもって、また、どういう絵図面をもって皆さんに説明をされ、御理解をいただいておりますのかということをお尋ねしたのが、今こういう資料をさっきの便りと、それだけですよね、便りと立体交差事業のこういうやつをいただきました。あとビデオを1本いただきました。連続立体交差事業のビデオでした。区画整理事業については、そういった資料はありませんということでした。もちろん、その高架事業が済まない区画整理事業には進めないという、そういう事情があるのはわかります。わかりませんが、とんとんと進めばよかった。ところが、とんとんと進まなかった。だから問題ですよ。その間じっと我慢しておかばいかんとですよ、商売人は。もちろんそこに住んでいらっしゃる方も。そういうときに、先ほど質問しましたが、その待ちの間、どういうことを行政として、地域の方に、地権者の方にされたんですか。そして、その事業者に対しては、どういうことを、どういう対策をとられたんですかということをお尋ねしたんですが、改めて、それでは部長ですか、市長ですか、答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的に、その計画は早くなったり遅くなったりというのは、いろんな要件でそれは決まります。そういう意味で、私たちとしても、基本的にどういう絵姿にするかということについては、私も着任以来、この話は部長レベルから正副市長に上げて話をしておるところであります。

そういったことで、私としては、夢のある中心市街地の再生プランをできるだけ早くといっても、これは関係者も多数いますので、来年に向けて、来年の春か夏のちょっと前ぐらいまでには出していきたい。それで、こういうふうに進むんだと、こういうふうには武雄の市街地は活性化するんだという絵姿を私の責任において出していきたい。これは基本的に、駅舎が来年の2月、あるいは3月にオープンします。箱ですね、オープンしますので、そういったことで、市民の関心がそこにまた集まるだろうと思います。それと、事業者の方、あるいは近隣にお住まいの方のケアもしなければいけません。それは何よりも、私たちが夢のあるプランを出すといったことで御納得をしていただくということかと思っておりますので、未来に向けて責任をきちんと負っていきたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

市長のその答えを待っておりました。やっぱり、皆さん不安なんです。行政が何かをすとかいうことになれば、そこに住んでおられる方はどうなるんだろうと。私も経験があります。若いころですね、区画整理事業、網がかかりました。商売しています。つらいときもありますよ、身動きとれないときもありますよ。もう処分しゅうかにか。そのときに網がかかっていたら売りに売れない、出ていくに出ていけない。ずっとそれで10年、20年待たされる。そういう方も中にはいらっしゃいます。みんながみんなとは言いませんがね。

だから、そういう方たちに、今市長がおっしゃったような絵図面、姿絵、そういうものを示してくださいということはもうずっと言うてきよった。前の市長のときも言いよった。今の樋渡市長になられてからも言い続けてきました。ところが、いまだに出てこなかった。できてこなかった。駅舎の図面は、たくさんきれいな絵図面が出ています。これを見れば、駅がこうなるんだ。わかります。ところが、区画整理事業では平面図の道路の図面だけ。そして、いただいた写真の中に1つあったのは、これ。これはわからん、これ。これはビデオの1コマ、ビデオは高架事業のビデオ。何億円というお金をかけて事業をするわけです。ならば、市長日ごろおっしゃっている効率のあるお金の使い方をしなくてはいけないのが皆さんであります。それで、その間の零細商業者対策、要するに、そこら辺の対策はされたのかされていなかったのか、これは答えが返ってこないですね。していないから返ってこないわけ



ですよ。いかにその地域の方は見放されていたか。これでは松原商店街、また1軒なくなりましたよね、ついこの間。こういうふうには衰退していく商店街を再生していくために、今区画整理事業をそういう夢のあるプランにしたいということは、市長が答えてくれました。平成20年の春から夏にかけて出していきます、ぜひそれを実行していただきたいと思います。

この区画整理事業が、高架事業が、今ずっと市長が打ち出しておられる観光とどういうふうにリンクしていくのか、どういうふうにリンクさせていくのか、これがますますもって市長の手腕にかかっておるわけです。市長もそうですが、最初、私は初めて一般質問をしたときに、武雄駅から西浦、松原温泉通り本町を通過して、温泉まで行く道が、あの道路が武雄の顔ですと。観光都市を目指すなら、その整備が早く望まれますということはずっと言い続けてきました。一日も早くハード面の整備が進まなければ、幾ら観光で手を打っていても、来た方が、何やこりゃ、そう思って帰られるのが多いんじゃないでしょうか。せっかく市長が頑張っておられるこの観光政策に対して、そのハード面の整備がおくれることによって、これは何億円、何十億円というマイナス経済効果が出てくると思います。

早くその絵姿を、そして整備を、その地域の方たちに理解、納得いただく いや、もちろん何もやっていないとは言いません。一生懸命職員の方たちも頑張っておられます。それは理解した上で、今後とも地域民のために努力していただきたいと思います。よろしいですか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は、質問を受けながらがっかりしました。というのも、私は松原の再生、あるいは中心市街地の再生につけては、こういうふうにしたいという思いはあります。これに向けて、民間の方、あるいは名前はいませんが、議員の方が水面下で一生懸命動いておられます。そういうことで、基本的なプランというのは、そういう水面下の動き、そしてこういうふうにしたいという明確な手続がない限り、絵姿はできないというふうに思っております。私が尊敬する湯布院の中谷さん、これは亀の井別荘の方で、今の湯布院をつくり上げた方ですけれども、まちづくりには100年かかるということをおっしゃっています。私はそれにはちょっと異を唱えるところがあって、私は常々申し上げるとおり、やっぱり10年はかかるというふうに思っております。

そういう意味で、ソフトは、ソフトクリームではありませんけれども、解けたり、あとストロベリーに変えたりはできる。しかし、ハードは、一たんこれを固定すると、なかなか10年から50年動かさないという状況下にあります。そういう意味で、これは慎重かつ慎重にやらなければいけないというふうに思っております。急いでとんでもないパビリオンになったようなまちも多々あるかと思えます。これは議員さんたちも視察でいろいろ見ておられる

と思います。私も聞いております。そういう意味で、最初議員がおっしゃった、私は武雄らしさ、人間らしさということで非常に共感を受けております。そういう意味で、今武雄らしさをそこにどういうふうに演出をするかといったタイミングに来ておるかと思っておりますので、ぜひ議員も評論家、傍観者じゃなくて、こういうふうに持ってくると、例えば、私は動いております。

そういうことで、これをここにはめつけなければいいじゃないかと、あるいは私はこれを持ってきたいということ、具体性、動きのあることをもって議論をさせていただければありがたいと思います。

私は、これは政治的生命をかけて必死になってやってまいりたいと思います。そういう意味で、いろんな御指導、御意見を賜ればありがたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

傍観者ではありません。地域の方の声を聞いて、それをこの場で伝えているのです。地域の方が役所に行っても、いっちゃんらちが明かんという声もあるんです。水面下で頑張っている方もいらっしゃるでしょう。けど、実際そこに住んでいる人の心の痛みがわかったら、今のような市長の答弁が出るものですか。

この件は、今後とも執行部の努力を求めます。そして、すばらしい顔の武雄にしていきましょう。お願いをいたします。

さて、次に移ります。その中でもう1つ、例の西日本の記事のことで言わなければいけなかったのがあります。

1つは、九州新幹線行きたい県、1位鹿児島、2位宮崎、この記事も載っておりました。佐賀は九州の中で最後です。もちろん大阪在住の方も広島在住の方も、そういう記事が出ておりました。これが1つ目にとまりました。もちろん新幹線がまだ走っていないですから、新幹線が走ったら、これも佐賀が上がってくるやもしれませんが、鹿児島や宮崎になぜ観光客というか、そういう方たちは行きたいのか。もちろん時間短縮効果もあるでしょう。しかし、宮崎というのは、そんなに新幹線は影響しないとは思いますが、宮崎に並んで長崎がありますね。これは訪れてみたい九州の県であります。佐賀は通過されるだけ、もしくはそういうことのないような観光都市武雄というものをしっかりと今後とも市長の力で続けていっていただきたいというふうに思います。

それと、この三位一体改革の中で、もう1つ記事がありましたね。「法人2税再配分、1兆円を地方に。格差是正狙う」と。冒頭申しましたのが、こういうところにひっかかってきておるわけであります。これは「企業が事業所を置く都道府県や市町村に納める税金。税額は、法人所得などを基に算定される。法人事業税は都道府県、法人住民税は都道府県と市町

村に納税する。複数の自治体に事業所を持つ企業は、基準に従って分割納付する。大企業の本社が集中する東京都、トヨタ自動車の本社や工場が立地する愛知県は税収が増え、財源余剰が生じている」、こういうものを地方にということであるわけです。

私はもともとこのことも言い続けてまいりましたが、これ以上に 武雄だけじゃない、仮に武雄にいろんな大手の事業所、大企業の事業所あたりがあるでしょう。そこから直接税金、そのままその売り上げに乗じた収入、税収ができないのかな、そういうことをずっと思っております。

そういうわけで、こういう時代であります。今後とも非常に厳しい財政の中ではわかっておりますが、何とか税収を上げるような努力を続けていっていただきたいというふうに思います。

次に移ります。

次は、交通対策であります。これもひとつ市民の声であります。

これを考える前に、その後に出てきたものですからなんですが、武雄市でも全国的にも問題になっている地域の公共交通であります。

高齢化が進む中、また人口の減少、モータリゼーションの進展などの影響により、交通空白地域をなくすための交通サービスの確保が大きな問題となっておりますが、武雄市の現状、また運営状況をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをいたします。

現在、市内を走るバス路線につきましては、自治体間を結ぶバス路線、あるいは市内を循環する循環バス、乗り合いタクシーと、さまざまな形態で運行がなされているところでございます。

1つは、地方バス路線運行対策ということで、武雄三間坂線、生活交通路線維持というふうなことで、祐徳線、多久武雄線、それと廃止路線代替バスというふうなことで、三間坂線、伊万里武雄線、小川入口線、市内循環バスということで、朝日橋武雄線、武内武雄線、乗り合いタクシー運行ということで、臼川内船ノ原線というふうになっています。現状でございますけれども、平成18年度の補助額ということで、市負担分につきましては26,328千円ということで負担をいたしているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

これは市民の声というよりも、関東におられる方の声だったんですよ。つまりその方は、

今は武雄に住んでいない、もちろん武雄の出身者ですよ。お父さん、お母さんが武雄に住んでおられて、この方たちも高齢であります。そういうふうな今、部長おっしゃったような地域に住んでおられるわけではありますが、今、お父さん、お母さんたちは、もちろん車の免許は持っているから、今はそういうふうなことの御厄介にならんでよいかもわからんけれども、今後、また年がいくにつれて、そういう公共の交通にお願いをせんといかんようになる。そのときに、何とかそういう路線、本数を維持してくださいというお願いがありました。また、その方もいずれ武雄に帰ってくると。そのときに私たちが帰ってくるころには、もうバスはなかりうね、そいぎ私は免許持っとらんばってん、どがんすっぎよかろうかというところからの素朴な疑問、お願いである。これを続けていただきたいというお願いであります。

こういうふうな高齢者ですとか、Uターンの希望者にとって、これは本当に大変な問題であります。今回、提案されましたね、交通会議、正式名称はちょっと忘れましたが、交通会議。そこで、今後どのようなことを考えられるのか。何か夢のあること、要するに先ほど言った将来的にも夢のあることをお考えいただけるのか。どういうふうなことを今後考えていられるのか。確かに、車でみんな自家用を持ってそれぞれが運転して、そういう享受を受けております。ところが、そういう人たちがばかり多いわけだから、結果的にそういう周辺部の交通状況が悪くなる。いわゆる車、自家用に乗れない、車に乗れない、運転のできない方たちに対してのしわ寄せが来る。これは当然私たちが、その責任ちや言いませんけれども、そういうことをする結果になったわけありますので、簡単なことではこれはでけんと思えます。何かそういうふうな施策を、その協議会で話をされるのか、お尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

協議会の中で、ちょっとお願いしようと思っておるのは、現状で、例えば議員はそういうバスは乗られたことありますでしょうか。

〔13番「はい」〕

その中で、私も乗りましたけれども、私が乗ったバス、ちょっとこれはどこに行ったかというのは申し上げませんが、それを調べたら、1便当たり0.3人であると。1人も乗っておらんわけですね。0.3人と言うぎんた、この辺からこっちのほうだけですね。そういうバスがある。これは乗っておんさつとは、一番乗っておんさつとで、これは武雄三間坂線ですけれども、1便当たり23人、これはちゃんと乗っておられると。こういうばらつきがあるわけですね。それをちょっと見直してほしいということで、その交通対策の協議会にお願いをしたいと。地域公共交通会議にお願いをしたいということと、もう1つが、見直しに際してはバス路線の主な利用者が、御高齢の方、それともう1つは学生さんであります。ですので、そこに集中する。今まで、どっちかというぎ、のんべんだらだらという感じの時間設

定をしていますので、そこを集中的にできないかと。利用者をきちんと上げるように我々は努力をしていきたいというふうに思っております。もとより年間で27,000千円近く、このバスの維持にはかかっております。そういう意味で、これが効果、効率的に使って、先ほど議員がおっしゃったように、その社会的弱者に置かれている方に夢のある交通体系にしていきたいというふうに思っております。

その上で、もとよりお願いがありますのは、ぜひ乗ってほしいということです。これは前の議会でも申し上げましたけれども、やっぱり乗らなくなっぎ、それはその分だけほかに予算ということに、別の要望もあります。そういうことで、乗っていただきたいということと同時に、今ちょっとびっくりしたのは、文化会館等で見ると、1人1台で来よんさっですね、軽に乗ってですね。これはもったいなか。軽は1台に4人乗れますですね。だから、乗り合って来てほしいということを思っております。もとより武雄の文化会館、あるいは市役所も駐車場が満杯でありますので、お誘い合わせの上来て、それが逆に言うと、地域のコミュニティーの維持にもつながっていくと思います。そういう声かけをこういったところでもやってほしいというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

市長おっしゃるとおり、1人で乗ってきよんさる者多かもんですよ、市役所にもね、職員も1人で来よんさる人おんさるですよ。それは途中まで子供さんを乗せてきて、学校に送って、それからお見えになっておる方もいらっしゃいます。やはり乗り合って、私たちも何かの会合するときにはできるだけ乗り合ってください。どっか行くときには乗り合っていきましょう。議員さん方もそうです。そういうことをやっております。今、そのお話の中にあつた27,000千円程度の武雄市からの補助金、これは要するに、この今おっしゃつた武雄三間坂線あたりは、非常に 祐徳線、多久武雄線ですね。非常に1日当たりの利用者数というのは高うございます。一方、今おっしゃつたようなほんの数人というか、こういう数字でいけば1.9人とか、そういう数字も出ておりますけれども、1便当たり利用者数0.3人なんていうのもございます。

そういうふうな状況の中で、これというのはちょっと私もお尋ねですけども、26,328千円を武雄市が出しています。国や県が出している補助金というのが11,254千円出されております。合わせて37,582千円かけて、そういう公共交通を維持していくということになるわけですね。とすれば、国や県がこれを出さないよと。もうその路線を廃止しんしゃいなんてなつたときは、この分もカバーせんばいかんごとになりますか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

カバーできるかどうかは、それはひとえに乗車率が7割から8割になる。そうすれば、それは市民の声ということで、もし仮になくなったとしても、それは私の責任でやっていきたいというふうに思っております。

ただ、これが先ほど申したとおり、0.3人ばかり出して申しわけないですけども、こういった状況だと、補助金が減らされたらほかのこれに使用したいという方々もいらっしゃるわけですね。そういった方々から、いや、これはこっちやろうもんと、乗りよんされんろうもんとといったことにもなりますので、今の段階で地域公共交通会議がどういう乗っていただくためのプランを出すかといったことに私は期待をし、注目をしたいというふうに思っております。

その上で、私は四季のそら、旧かんぼの宿で我々が売却したものでありますけれども、あそこが無料で乗せていきよんさっですね。若木のところから市役所等を通して、最後お山まで行きよんさるですね。そういう事業者もおられるわけです。だから、ゆめタウンはしておられるかもしれませんが、例えば、ゆめタウンであったりとか、そういうジャスコであったりとか、そういった事業者が今できるようになっております。道路運送交通法ですね、これは日本語かどうかわかりませんが、それはできるようになっておりますので、そういった事業者にぜひ公共に、あるいは地域政策をお願いしたいということを改めて我々として、もう少し時間がたった段階で文書で通知をしたいというふうに思っております。もう四季のそらはやられております。

もう1つが、先ほどの法の改正で、NPO、有償ボランティアでそういう運送業ができることは認められております。今、私どもにも問い合わせが数件来ておりますので、そういった民のパワー、NPOのパワーを地域交通政策にうまく当てはめていって、みんなが笑顔になれるような、我々も笑顔になれるような交通体系の政策を進めていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

そうです。そういう笑顔で送れる明るい社会、そういうものを目指していきたいと思うわけですが、今確かに市長おっしゃったように、NPOさんでありますとか、有償運送ですかね、そういうものも確かに利用していかなくてはいけないと思います。がしかし、やっぱり何度も言って申しわけないですけども、こういうモータリゼーション社会の中で、そういう弱者の交通便というのはどうしてもマイナスになりがちでありますし、また、この三千何百万円のお金も有効利用しようと思えば、もっとほかに使える方法もあるわけですよ

ね、そういうふうに使いたい。厳しい財政の中であります。ですから、できればこれは提案でありますけれども、市長、県税というんですかね、自動車税、そういうふうな、私たちも自動車でそういう状況をつくっている中で、新しいそういうふうな県や市、要するに県民全体がそういう交通網を支えるという意味でも、新しい税を考えて、これも考える価値はあるのではないかと思います。ぜひ県民全体で支える、武雄市も佐賀市もどこの市も全部みんなと一緒に支えるような、そういう新税の検討を県へぜひ働きかけていただきたいということをお願いして、次の項目に移ります。

次は、高校総体であります。

高校総体は、7月28日から8月20日まで、佐賀県全域で広く県民との協働という形で開催をされました。武雄でもバドミントン、そして自転車会場となったわけではありますが、これらにかかった経費は幾らかかったのか。また、その中での市の負担は幾らぐらいなのか、お尋ねをします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

まず高校総体の経費でございますが、現在精算をしている段階でございますが、一応予算といたしましては、全体で実行委員会のほうの予算ですが、164,000千円。それからその内訳ですが、バドミントン競技が98,000千円、それから自転車のトラックですね、これが31,000千円、ロードが33,000千円、そのほかに事務局費が2,000千円ほどございます。それで、幾らか不用額が出るということでございますが、一応トータルといたしましては全体の予算の範囲内でおさまると、そういう見込みでございます。（「市の負担は」と呼ぶ者あり）

それから、市の負担額でございますが、これは実行委員会に対する市の負担金でございます。これにつきましては39,750千円予算に組んでおります。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

それでは、その高校総体に職員の方も動員といいますか、お手伝いなどもされておられますし、私も会場へ行きますと、たくさんの職員の方が汗るるるやりながら頑張っておられたのを見ましたが、高校総体の事務局以外に会場に出て作業をされていた、これらはボランティアなんですかね、それとも、お仕事というか、勤務というか、そういう形で出られたのでしょうか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

高校総体は、市の職員初め、たくさんのボランティアの方々に支えられて運営をいたしました。それで、市の職員のほうですが、基本的に業務と密接なかかわりがあって、職務の専門性が問われると、そういうふうな部署については職員の動員ということで対応をいたしております。

それで、主に競技の開催日で申し上げますというと、1日当たりですけど、バドミントンで64名ほどになります。それから、自転車のトラックですが40名、それから、ロードでは47名ほど職員を動かしております。

なお、ロードの際は、これは今申し上げました者以外に、市の職員互助会のほうからボランティアということで、142名ほどの協力をいただいております。

なお、職員の休日出勤の件ですが、休日出勤の職員については代休扱いということで対応をいたしております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

市民のボランティアは今出なかったですね。

〔教育部長「はい」〕

それじゃ、市民の方たちの協力状況、そして、各町ロードの際の状況を教えてください。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

ボランティアという形で、非常にたくさんの団体、グループの方から協力をいただいております。今9月号の市報でも、実行委員会会長の市長のお名前で報告、またお礼を申し上げますけれども、ロードの部分で申し上げますというと、消防団とか体育協会、その他、先ほど申し上げました市の互助会とか、いろんな形で約900名ほどの御協力をいただいております。

業務の内容といたしましては、立哨業務とか看板の設置、撤去、それから休憩所を設けておりますが、その清掃とか、いろんな形で御協力をいただいております。

それ以外に、これは白岩体育館関係ですが、もてなし清掃ということで、建設業協会とか青年会議所、それから、それ以外の団体も御協力いただきまして、体育館周辺の清掃をやっておりますし、それから、市内随所で草花の装飾とか、あるいはのぼり旗を立て



ていただく、清掃をやっていただく、とにかくたくさんの御協力をいただいております。

それから、ロード競技の際には、コースに頑張れ看板といいますか、朝日、若木、武内、武雄、各町それぞれお考えをいただいて、ユニークな応援看板、のぼり旗、それから小旗です。それから、休憩所としての開放という面でも御協力をいただきました。

ということで、非常にこういった御協力をいただきましたグループの方々には感謝を申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

本当にボランティアで出ていただきました方たちには感謝をいたします。あの炎天下の中、また、そしていろんな会場の中で汗水を流して、そして若い高校生の方たちの競技に花を添えていただいたことを私のほうからも感謝申し上げますし、消防団の皆さん、多くのボランティアの皆さん、本当にお疲れさまでございました。

これらのことで、高校総体として、事務局として、まだまだまとめができていないかわかりませんが、苦情というかな、反省点は何かありましたでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

今申し上げましたように、2つの競技ともたくさんの市民の方々の理解と御協力に支えられて、無事に終わることができました。スタート段階では、若干混乱が生じたというような場面も幾つかございましたけれども、たくさんの関係者の方々の御協力によって、スムーズに運営ができましたし、印象に残る大会になったのではないかなというふうに思っております。

それから、市内の小・中学校の子供たちの看板等での応援、これについては出場選手の方の声を聞いても、非常に励みになったというようなこともございましたし、それから、各会場でサポート役をしていただきました高校生の方々、暑い中大変だったですけれども、よく頑張っていたというふうなことで感謝を申し上げます。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

私もそのバドミントンも、自転車競技、またロード競技の際も、沿道に出て、そのコース内で応援をするためには、6時前に、もちろんボランティアの方はたくさんその時間以前に出ておられますけれども、そういうことをして応援をさせていただきました。本当にいろん

な意味で、たくさんの人にお世話になってこれができ上がったんだというふうなことを、そのときつくづく感じました。

今、反省点も言っていただきましたが、ここに新聞の切り抜きがちょうどありました。これは「佐賀総体に心打たれた」という投書記事であります。鹿児島の方から、高校3年の次男が佐賀総体の陸上大会に出場した。もちろんこれは武雄のことではありません、佐賀であります。「役員さん、監督さん、高校生ボランティアのみんなが一生懸命取り組んでいる姿に心を打たれ、佐賀大会へ来てよかったと思いました」。陸上競技場ですから、何かありましたよね、風があおってテントがどうだということもありました。「ただ残念であったのは、観客のマナーが悪いことです。帰るころになると、あちらこちらにペットボトル、空き缶が置いてありました。階段下にごみ箱が設置してあるにもかかわらずです。大会を盛り上げようと企画、運営されているのに、マイナスになっているようで残念でした」と、るる書いてございまして、もちろん最後には、「思い出多いこの地を、また訪れたいです。素晴らしい佐賀総体、ありがとうございました」ということで書いてあります。確かに、たくさんのボランティアの方には、本当にお疲れさまと言いたいと思います。いろんな公衆道徳、そういうマナーがなかなか徹底されていないというのが残念に思うところであります。もちろん、武雄ではなかったと信じております。

さて、この高校総体で、いろんなもてなし事業をするということで、以前、御答弁をいただいております。その実績は果たしてどうだったでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

それでは、私のほうから、観光課のほうで取り組みました武雄市独自のもてなしについて答弁したいと思います。あと、実行委員会のほうでされたもてなしについては、教育部長のほうから答弁があると思います。

項目ごとに申し上げますが、まず宿泊者に対する入浴の助成ということで、これは選手、監督以外の応援者、それから役員関係に対しまして、武雄温泉の元湯、それから蓬莱湯につきまして、自己負担を100円として、その差額のほうを負担するというので、実績が1日約70名の利用がありまして、期間中1,735件の利用がっております。

それから、市内の観光、巡回バスが運行をしております。これは当初、7月28日、8月11日の1日2回ということで、午前、午後予定をしておりましたが、最終的には1日2便だけでございまして、利用者が18名ということで、これについては利用者が選手の方が多かったということで、大人の方が少なかったという関係で、予想よりは少なかったような気がします。

それからもう1つは、市内のランチマップをつくりまして配布をしております。これにつ

いては、特に応援者の方の昼食ですね、これの情報提供をやったということで、市内に約2万部を配布したということでございます。

それから、JRの駅のほうで、期間中、延べ14日間ですが、これは婦人会の協力を得まして、武雄の今売り出し中のレモングラスを駅の構内でお客さんに提供をしております。これについては婦人会の協力でありがとうございました。

それから、高校の総体に合わせまして、今も開設中ですが、温泉通りのほうに案内所、武雄まちなか案内所「がばい」ということで、7月7日から開設をしております。これについては、利用者が延べで8月末までで1,574名ということで利用をいただいております。これについては、まだ継続して案内所は設置をしております。それから、そのほかに商工連合会のほうで、自分たちで商店街の通りに花をいっぱいということで、自分たちの知恵で通りを花で飾ってもらったというもてなしがございます。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

それでは、武雄市の実行委員会のほうで行いましたもてなし事業について、簡単に御報告をしたいと思います。

まず、選手、監督に対する分でございますけれども、実行委員会のほうでは、選手、監督に対しまして、温泉券を2種類ですが、配っております。1,900枚ほど配りましたけれども、約500枚の利用がっております。それ以外に、オリジナルの記念品ということで、選手、監督、役員等にお配りをいたしております。

それから、それ以外では、競技場周辺、あるいは練習会場、それから駅等への草花の装飾、フラワーポットですが、これもボランティアの方々の御協力を得て設置をいたしております。それから、歓迎看板、横断幕、これは駅とか楼門前、それから市内各所に設置をいたしました。

それから、先ほど御紹介いたしました白岩体育館周辺の環境の美化活動、これについては125名ほど御参加をいただきましたが、このときの費用ももてなし事業のほうから出しております。

それから、レンタサイクルですが、52台ほどの利用をいたしております。トータルで420名ほど利用をいただいているようでございます。

それから、大会のガイドマップですが、これについては両競技合わせまして10万部ほど印刷をし、配布をいたしております。

それから、先ほど申し上げましたロードの際の各町での小旗等ですね、この費用についても実行委員会のほうでやっておりますし、それから、北方中学校のほうでも独自に歓迎横断

幕をつくっていただいておりますが、これも実行委員会のほうで支出をいたしております。今現在、精算中でございますが、全部で4,000千円ぐらいいくんじゃないかなというふうに思いますが、これは県のほうから交付金として参りますので、それでもって対応するというふうなことに相なります。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

ありがとうございます。大変もてなし事業をするについても、いろんな企画を立てていただいて、高校総体だけでこんなにたくさんのパンフレット等までいただきました。この中にも、私は一般質問の中にも上げておりました観光スポットではありませんで、観戦スポット、そういったものもつくっていただいておりますのでございました。ありがとうございました。

それで、せんだってもお尋ねしましたが、この経済効果は幾らかということを申し上げましたら、1億円ということでした。どのくらいと見積もられますか。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えします。

宿泊関係につきましては、県のほうの配宿センターのほうで配分がなされまして、その実績について、まだうちのほうに来ておりませんが、うちのほうで市内の旅館、ホテル等に聞き取りをしております。そこで、宿泊の実績といいますか、聞き取りの中では約1万8,000人、高校総体関係で宿泊がされたということで、これについて料金を10千円で換算しますと、約180,000千円になります。

それから、弁当関係につきましては、これも県のほうから発注をされておまして、選手、役員分で約3,050個ということで、約2,000千円程度。それから、市内の各所に看板、いろんな印刷物、消耗品等で約18,000千円と。それからもう1つが、武雄温泉の入浴客が1日100人程度多かったということで、これでいきますと約450千円ということで、これだけで約2億円程度になります。

それから、そのほかに、当然よそからのお客さんですから、土産等の購入があるということで、これについて物産館に聞いたところでは、約2割多かったということ。それから、武雄温泉駅の利用者が9%ぐらいの人員がふえて、収入でいくと16%ぐらい増収になったと。

それから、タクシーの利用者ですが、これについては約10%前後の増収があったということで、そのほかに市内の飲食業、それからコンビニ関係についても若干の売り上げがあったということで、うちとしては2億円以上、2億円から3億円の経済効果があったということで理解をしております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。思った以上、たくさんの効果が出てきて、これが実際どれだけ利益を生んだのかとなれば、また別でしょうけれども、こういう事業なんていうのは、50年に1回くらいしか来ないわけですから、この時期を的確に逃すことなく進めてやっていただいたことと思います。

ただ、この後、実際いろんなところにお泊まりになったり、いろんなものをごらんになったりした、そういう方たちに対してアンケートといいますか、そういうふうな、武雄に来られてどういう印象だったのかというお声を、直接そういう方たちに聞くというの、ペーパーあたりで聞くというのも大変意味のあることではないかと思しますので、そういうこともお考えいただければというふうに思います。

それで、次に行きます。

男女共同参画であります。これまでも何回となくこのことについてはお尋ねをしております。やはりその実現に向けて、少子・高齢化の中で、経済の成熟化など、変化する社会の中で、なお一層力を入れる必要があると感じるわけではありますが、せんだって、8月29日と、これはもう1つ、その翌日に農業の女性団体で開催された会議があるようですが、そのことについてお尋ねをいたします。そのことについてどういうものだったのかを、その2日間のことについて御説明ください。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

8月29日に行われました「わいわい話そう女性たちの農業大会」と。内容につきましてですけれども、農業の従事者や消費者68名が参加をされて、基調講演「女性がつくる魅力あるまち」に引き続きまして、「わいわいがやがや佐賀の農業を語ろう」と題しまして、5つの班に分けた座談会が実施をされております。座談会におきましては、農業の現状や問題点等について、農業者相互、あるいは消費者と農業者間での情報や自由な意見交換がなされておるところでございます。

本会を主催いたしております佐賀の農業を考える会ということですが、佐賀市女性ネットワークの会の構成団体でありますけれども、農村女性グループ研究会が佐賀の農業について学び、考え、実践し、農業分野の男女共同参画社会づくりを推進し、豊かで活力ある地域をつくることを目的に、本年5月に発足をした女性団体であります。

もう1点の農村女性ステップセミナーについても、この分の主催は杵島農業改良普及センターというふうに聞いております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

この2つの会議の中で、地域、そして職域の中で女性の元気な活動が見受けられるわけがあります。家族協定、家族経営協定という言葉も、私ここで、この資料をいただいた中で初めて知りました。要するに、その農業の中でも、そういう会社ではありませんが、そういうちゃんとした職責を持って、お互いに助け合っていくという、そういう身分の保障というわけではないでしょうが、ここに書いてありましたよね。形式にこだわるものではないが、家族みんなが男女を問わず、意欲を持って農業経営にかかわるよう世帯員みんなで話し合いながら進めるというルールをつくっておられて、その中でも、そういう協定を結んでおられる方がたくさんいらっしゃるということでありました。そういう農業の中でも、男女共同という意識の芽生えがする進んでいるということを感じたわけでありました。

こういう形で、その男女共同参画を進める女性の活動を耳にしますが、旧武雄市のときから活動の拠点ということで、女性センターの設置が要望されておりました。その後、設置に向けての種々の検討がされているというふう聞いておりますが、その後どのようになりましたでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきます。

議員がおっしゃったとおり、まだ検討中というふうなことでございます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私から検討中の中身について申し上げたいと思います。

いろんな案がありますけれども、少なくとも企画部でも、我々のほうでも調べていますけれども、女性センターという名称について、私は反対であります。というのも、私は前任は高槻でありましたけれども、女性センターには女性も寄りつかん、男も寄りつかん、猫が寄りついていました。要は、そういうのじゃなくて、何か行きたいって思わせるようなところにしなればいけないというふうに思っております。

それは、私は基本的には、空き庁舎の利用で、有効活用で何とかできないのかなと、今質問を賜りながら思ったところでありましてけれども、魅力ある、名称は女性センターという質問がありましたけれども、男女共同参画の拠点ですよね。それについては、もう少し協議を進めていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

13番（前田法弘君）〔登壇〕

前田法弘、持ち時間がありません。

確かに、いろんな女性の方たちが自分たちで、そして動き出そうという、せっかく市民みずからの活動として進めていく機運が高まっているようでございますので、早期設置を目指して積極的に、かつ実現性のある取り組みを進めていただきたいということをお願い申し上げます。

無駄な金は使わないというのが、日ごろ市長おっしゃっておることです。しかし、行政は弱者の生活安定、安心・安全を保障するものでなくてはなりません。そういうことも踏まえて、今後の市政運営をお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。